

『三合便覽・清文指要』校注(1)

竹越 孝

<前言>

本稿は、清・敬齋編、富俊補『三合便覽』の巻一に収められる満洲語文法書「清文指要」を対象として、その満洲文字をローマ字に転写し逐語訳を付すとともに、中国語の部分を翻刻した資料である。以下、春花(2008)を参考に同書のあらましを述べる。

『三合便覽』(満文名 *Ilan hacin i gisun kamcibuha tuwara de ja obuha bithe* ; 蒙文名 *Гурбан жүл-үн үге qadamal үjeküi-dür kilbar bolγaysan bičig*) 十二巻は、敬齋(生卒年不詳)が編纂したものを子の富俊(1749-1834, 蒙古正黄旗人, 姓は卓徳, 字は松巖)が増補刊行した、満洲語・中国語・モンゴル語の三言語対照辞典である。以下の記述は天理大学附属天理図書館蔵の乾隆57年(1792)刊本(蔵書番号 829.44-77)による。

本書の巻頭には富俊による乾隆45年(1780)の序があり、満・蒙・漢の三体合璧形式で記されているが、その漢文部分を引くと以下の通りである(句読は筆者、カッコ内は小字双行)：

『三合便覽』一書，先大夫敬齋公所手輯也。蓋蒙古書與國書不同，國書有圈有點，不難開卷了然。蒙古書既無圈點可別，而其中更有書此讀彼，及同音異寫等字，使人易致混淆，初習蒙古文者恒苦之。先大夫當未第時，即立意輯成是書，以取便家塾，第有志而未逮。歲戊辰成進士，授理藩院主政，兼軍機處行走，案牘勞形，益無暇及。迨庚辰年恭膺，簡命督理殺虎口驛務，公餘多暇，乃獲從事於是書。是書行分四格，首冠以國語，次漢語，次蒙古語，末則以清書書蒙古語(如蒙古語 *tnгри* 清書 *tenggeri* 之類)。使閱是書者，既易得蒙古書之本體，與蒙古語之本義，而尤易得蒙古語之本音。其次序即依十二字頭，而每字頭之中，又自為次序之，以故卷帙雖繁，而檢閱頗易，立法最為盡善。越寒暑而書成，名曰『三合便覽』，誌其實也，亦從其質也。惟是先大夫口差甫竣事，即出牧廣德，嗣調六安，旋又署理潁州郡篆，地衝政繁，不遑復理是書，以故新語多所未備。今年春，余小子不自量，偕二三友人，依例增補，繕寫成帙，以終先大夫未竟之志，而供同學者採擇焉。因并紀是書之顛末，於簡端云。乾隆歲次庚子仲春穀旦，秀升富俊謹識於紹衣堂。(序 1a-12b)

以上の序では、主に編纂の過程と本書の特徴が述べられている。まず編纂の過程としては、父敬齋が科挙及第の前から本書編纂の志を持っており、乾隆13年(1748)に進士となった後、理藩院主政となり、乾隆25年(1760)に殺虎口(現在の山西省朔州市

右玉県北部)で駅務の傍ら本書を編纂した,しかしその後広徳(現在の安徽省宣城市),六安(同六安市),潁州(同阜陽市)等の県令を務める中で本書を顧みる暇を得られなかった,そこで父の死後,自分が友人とともに増補を試み,父の遺業を継いだ,といった内容が語られている。また本書の特徴として,すべての語彙を四段に分け,満洲語,中国語,モンゴル語,そして満洲文字表記のモンゴル語の順で示したこと,語彙は満洲語の十二字頭の字母順に配列し,その内部もまた十二字頭に従って検索の便を図ったことなどが記されている。

本書の封面には中央に書名の「三合便覽」,左欄に刊行年と出版者を示す「乾隆壬子年鐫 本宅藏板」とあるほか,右欄に小字で以下のような記載がある(同上):

是書參訂閱廿餘年,寒暑行役,未嘗稍輟。其間音或襲謬,字或沿訛,淺見寡聞,無所就正。公諸同志,惟冀匡所不逮,俾免貽悞後人。卷端附以指要二編,蓋恐有志之士無力延師,存此以當一隅之舉。秀升富俊謹白。

これもまた編纂の経緯を簡単に述べたものであるが,「指要二編」が師を得られない学習者のための補助的教材であることを示している。

『三合便覽』は巻一の文法部分と巻二から巻十二までの辞典部分に分かれる。

巻一は満洲語とモンゴル語についての概説で,「十二字頭」12葉,「清文指要」41葉,「蒙文指要」28葉の三篇からなる。「十二字頭」(満文名 *Juwan juwe uju*)は満洲語の音節表である。「清文指要」(満文名 *Manju bithei oyonggo jorin*)では満洲語の機能語,即ち名詞格語尾や動詞活用語尾を始めとして,常用の接辞,助詞,後置詞,接続詞などが例とともに解説されている。「蒙文指要」(満文名 *Monggo bithei oyonggo jorin*)ではモンゴル語の正書法と機能語が,満洲語との対照の形で解説されている。

巻二から巻十二までは辞典(語彙集)部分であり,十二字頭の字母順に配列された満洲語を基準として,中国語,モンゴル語,満洲文字表記のモンゴル語が対照の形で示されている。うち,巻二から巻十までが敬斎原著の部分,巻十一と巻十二が富俊の増補部分とされる。

巻一の「清文指要」は以下の6節よりなる。カッコ内は試訳:

1. *fiyelen i durun i hacin* (章則類) 1a-2a
2. *sula gisun i hacin* (虚辞類) 2b-7b
3. *sula hergen i hacin* (虚字類) 8a-34a
4. *toktoho kemun i hacin* (制限類) 35a-37b
5. *teodenjeme baitalara hacin* (仮借類) 38a-38b
6. *kūbulika durun i hacin* (変則類) 39a-41b

それぞれの内容は、1 が接続表現のリスト、2 は常用表現のリスト、3 は機能語についての解説、4 は呼応関係における制限についての解説、5 は代替可能な表現についての解説、6 は例外的な規則についての解説と考えられる。1-2 節と 3-6 節では体裁が異なり、前者では一行を四段に分けて満洲語の語彙とそれに対応する中国語を二つずつ記すのに対して、後者は段を分けず満洲語と中国語が混在した文の形で記される。

清代の満漢資料については、満漢合璧会話書に続き、満洲語文法書についても近年影印や校注の公開が進んでおり、既に嵩洛峰『清文接字』（同治 5 [1866] 年）、徐隆泰『清文字法舉一歌』（光緒 11 [1885] 年）、萬福『重刻清文虚字指南編』（光緒 20 [1894] 年）などが『早期北京話珍本典籍校釈与研究・清代満漢合璧文献萃編』（北京大学出版社）に収められているが、さらに全貌の把握に努めるべく、ここに本校注を公表する。

なお、最後に「清文指要 Manju bithei oyonggo jorin」という篇名について一言しておくが、これは満洲語の会話書『一百条』（Tanggū Meyen）を満漢合璧の形式に改編した『清文指要』（乾隆 54 [1789] 年）と同じであるが、内容的には全く無関係である。本書の編者である富俊は、同じく『一百条』の系列に属する蒙漢合璧版の『初學指南』（乾隆 59 [1794] 年）、満蒙漢合璧版の『三合語録』（道光 9 [1829] 年）、そしてオイラート文語版の『トド文字一百条』（『蒙古托忒彙集』所収、嘉慶 2 [1797] 年）の編者でもあり、『一百条』の改編と書名の選定にあたって『三合便覽』の本篇名が影響した可能性もあるが（拙稿 2023 参照）、現段階でその関係については詳らかでない。

<参考文献>

春花（2008）『清代満蒙文詞典研究』、瀋陽：遼寧民族出版社。

竹越孝（2023）「『清文指要』『續編兼漢清文指要』の成書過程—版面の差異と語彙の偏在から—」『神戸外大論叢』76：137-165.

<凡例>

- ・ 天理大学附属天理図書館蔵本『三合便覽』（829.44-77）を底本とする。
- ・ *fiyelen i durun i hacin* 及び *sula gisun i hacin* の二節にあつては、最初に葉、表裏、行の情報を提示し、満洲文字のローマ字転写と対訳の中国語を示す。他の節にあつては、満洲語の例文に日本語で逐語訳を付し、一定のまとまりごとに葉、表裏、行の情報を提示する。
- ・ 満洲文字は Möllendorff 式によりローマ字転写する。逐語訳は純粋に直訳的なものではなく、日本語としての理解しやすさを優先する。
- ・ 漢字は原則として底本の使用する字体を用いるが、一部の俗字は通用の字体に改める。

1a1	fiyelen i durun i hacin.			
1a2	kemuni donjici.	嘗聞	kemuni gūnici.	嘗思
1a3	tuwaci.	按	baicaci.	查得
1a4	julgei fonde.	古者	julgeci ebsi.	古來
1a5	daci.	從來	aici.	蓋
1a6	te bicibe.	今夫 夫 且夫 即 如	adarama seci.	何則
1a7	tuttu.	于是 故 所以	tuttu ofi.	故 是以
1a8	tuttu oci.	然則 則 若是乎	tuttu bime.	然而 而 而且
1b1	tuttu seme.	然 殊不知	uttu ohode.	如此 則
1b2	uttu akū oci.	不然	uttu oho manggi.	夫然後
1b3	udu.	雖 縱	uthai.	即
1b4	tereci.	因而 于是 由是	tere anggala.	況且
1b5	eiterecibe.	總而言之 要之 總之	amba muru.	大抵 大約
1b6	ereni.	由此 將見	erebe tuwahade.	由此看來
1b7	erebu tuwaci.	由此觀之	ede.	是以
1b8	jai.	若夫 抑 再與 至於 及 至若	eici.	或
2a1	ereci tulgiyen.	此外 其餘	entekengge.	如此者
2a2	jakan.	近時	jakan donjici.	近聞
2a3	damu.	惟 只 但 弟	bairengge.	伏乞 求者
2a4	buyeregge.	惟願	gisurehengge.	議得
2b1	sula gisun i hacin.			
2b2	aname.	埃次 每事每物之每	akūci	不然 否則 無已
2b3	asuru.	甚	atanggi.	幾時 何曾 幾曾
2b4	adali.	猶 如同	adarama.	何以 安得 焉能
2b5	amasi.	往後	acambi.	當 宜
2b6	ayoo.	恐字意	ara.	痛楚聲 惡
2b7	ainambi.	作甚麼 奚為 何為	ainambahafi.	何以得 怎能勾
2b8	ainame ainame.	苟且	ainaha seme.	斷然 必 決
3a1	ainu.	為何 因何	aika.	如 若
3a2	aikabade.	設使 倘 苟	aibi.	何有 何妨 何難

		藉令 假若		
3a3	aise.	心擬其然而不直 言也 想必 問人之詞也	aiseme.	何故 以何
3a4	ai geli.	豈敢 豈有此理	aimaka.	擬其為然而記不真也 什麼 追憶之辭也
3a5	ai kemun.	有何定準	aifini.	早已
3a6	arkan seme.	剛剛的甫	an i.	照常 仍然
3a7	antaka.	何如	andande.	暫時
3a8	absi.	甚矣 贊歎詞 何往	absi ocibe.	不拘怎樣 無往
3b1	esi.	自然	ele.	尤 益 更 甚
3b2	elemangga.	反倒	emumu.	或
3b3	ememungge.	或者	eci.	自然 應諾語
3b4	ertele.	至于今 至今	ereci.	自此 從此
3b5	eiten.	一切 各 凡 庶	eitereme.	任憑怎樣
3b6	eicibe.	皆必然之詞也 自 左右 橫豎	enteke.	此 這樣
3b7	enteheme.	常 恒 經	ebsi.	以來 往這裡
3b8	embici.	或有	emdubei.	頻 不住的
4a1	emgeri.	一遭兒 已經 既已	emgi.	與
4a2	inu.	是 亦	ini cisui.	自 自然
4a3	isika.	將然 庶幾	isitala.	以至
4a4	ici.	右隨嚮往	isihunde.	彼此 互相
4a5	oho.	作為已畢辭 了 已然辭	ohakū	不會 未許 未為
4a6	obumbi.	為 使	oso.	使令辭
4a7	otolo.	直至於此	ocibe.	雖可 或此或彼之或
4a8	ojoro.	可 為	ojorakū.	不可 不許
4b1	onggolo.	之前 先 未然	ombi.	可 為許 為
4b2	utala.	許多 如許	umai.	全然 並其 總
4b3	umainaci ojarahū.	無奈 不得已	umesi.	至 甚 最 極
4b4	ucuri.	時會 際	urunakū.	必
4b5	urui.	執意 每 唯 恒	urse.	者 人等
4b6	urkuji.	緝 恒悠久之意	unde.	尚未
4b7	unduhuri.	徒然 落場空	uthai.	即 就 便則

4b8	uttu.	如此 這樣	naranggi.	終 究竟 到底兒
5a1	nergin.	當時 際 間	nikedembi.	將就
5a2	ningge.	者 的	nisihai.	徹底之撤 連茹之連 和衣之和
5a3	neneme.	反 加 適	gaihari.	猛然 突然
5a4	gaitai.	忽然	hamimbi.	幾乎 將 庶乎 庶幾
5a5	hacin hacin i.	件件 種種	ulhiyen ulhiyen i.	漸漸的
5a6	dahūn dahūn i.	反覆	emke emken i	一一
5a7	teisu teisu.	各自各自	siran siran i.	陸續 接接連連的
5a8	cun cun i.	循循	hoi.	一任 由其
5b1	babade.	處處	babi.	有處
5b2	baibi.	徒 白白的	baibumbi.	需 待 庸 須得
5b3	baitakū.	無用	banjinambi.	生 由出 成致
5b4	beleni.	現成的	bireme.	徧 槩 普通
5b5	biheni.	豈有呢	sere.	說 謂 稱
5b6	sembi.	曰 為 說 謂 稱 言	sidende.	間 際
5b7	taka.	暫且	talu de.	偶爾 間或
5b8	daci.	起初 原先	daljakū.	無干 無涉 不與
6a1	ai dalji.	何干	tetele.	至今 迄今
6a2	teile.	惟 但 只 止 徒	deri.	由 從
6a3	dembei.	甚 着實	toktofi.	必然 決然
6a4	tulgiyen.	以外 其餘	dubentele.	終究 到底
6a5	dule.	原來 竟 曾	duibuleci.	譬如 假比
6a6	maka.	不識 不知	majige.	畧 少 須與
6a7	mekele.	徒然 白張羅	mujakū.	孔惟 實在
6a8	mujangga.	甚哉 果真的 信乎 誠哉	casi.	往那
6b1	canggi.	僅 純是	cihai.	任意
6b2	cibtui.	三 再三儘着	jaci.	忒 太甚
6b3	jiduji.	定要 究竟	jing.	正然 亟 悠久
6b4	juken.	平常 賴着	yaka.	疇 孰 非問詞
6b5	yala.	呆然 如	yaya.	凡
6b6	yargiyan.	洵 固 實 真 誠 信	gese.	如 似 同 猶 若
6b7	gemu.	皆 都	gelhen akū.	敢

6b8	giyanakū.	寧 能幾何	giyan i.	理當 宜
7a1	fajjima.	不妥 變卦	fikatala.	太遠 毫不親切
7a2	fili fiktu akū.	無端 平白的	fuhali.	竟 總不之總
7a3	fonde.	當彼時	funde.	代 替為
7a4	ume.	勿 毋 別 禁止詞	manggici.	不過 至多 滿破着
7a5	absi akū.	至少不過	gūnihakū.	不料 不意
7a6	we gūniha.	誰想 豈料	gūniha gūnihai.	想起甚麼是甚麼
7a7	nambuha nambuhai.	胡來 擡着就來	baha bahai.	得甚麼是甚麼
7a8	waka wakai.	混鬧胡行 亂來	waka oci ai.	非此而何
7b1	ai ocibe.	至不及口氣 任憑怎樣	ai hacin i.	極其 任你 憑怎樣的
7b2	esi seci ojarahū.	不由的	emembihede.	倘或
7b3	elei.	差一點 幾乎 險些兒	elekei.	險些兒 此字尤緊 幾幾乎 差一點兒
7b4	afanggala.	將入之將 先 臨去之臨	meni meni.	各 各人的

[待續]